

課題名
成果の概要

38. IGR剤によるミカンハモグリガの効率的防除

ミカハモグリガ成虫はカンキツの夏秋しょうの発生初期に多くなるので、この時期にデミリン水和剤の散布間隔を通常の7日から3～5日間隔につめて2回散布し以降7～10日間隔で散布すれば、新葉の被害を許容限界（被害度5程度）に抑えられる。

表1 フェロモントラップによるミカンハモグリガの発生消長

調査期間	6月		7月						8月			
	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4半旬
誘殺虫数	972	586	848	4087	5699	2343	1108	1572	1420	1370	758	1367

表2 薬剤の散布間隔とミカンハモグリガによる被害軽減効果

供試薬剤名	散布間隔	被害程度 (%)				被害葉率	被害度
		—	±	+	++		
デミリン 水和剤 2,000倍	3、7、10日	93.8	2.3	2.8	1.1	6.2	2.9
デミリン 水和剤 2,000	5、7、10	97.9	1.3	0.4	0.4	2.1	0.8
デミリン 水和剤 2,000	5、10、10	93.6	1.5	3.6	1.2	6.4	3.3
デミリン 水和剤 2,000	7	81.2	9.7	4.8	4.3	18.8	8.3
インセガー 水和剤 1,000	3、7、10	93.2	4.7	1.9	0.2	6.8	1.9
ロディー 乳剤 2,000 ^{a)}	7	99.8	0.1	0.1	0	0.2	0.1
デミリン 水和剤 2,000	7						
ミカントップ乳剤 2,000	7	100.0	0	0	0	0	0
無処理		36.7	10.7	15.7	26.9	63.3	41.4

a) ロディー乳剤処理7日後から、7日間隔でデミリン水和剤3回散布した。

成

績

概

要

(果樹試験場)

普及上の留意点

デミリン水和剤の安全使用基準は収穫前30日まで、2回以内であり普及にあたっては、この基準を守ることが大切である。